

小社出版物につきまして、下記の訂正がございます。ここに訂正し、ご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

『ラクラク突破の1級建築士スピード学習帳 2026』 正誤表

2026年2月9日

科目	頁	該当箇所		誤(訂正前)	正(訂正後)
法規	233	実践問題 問6	解答解説	鉄筋コンクリート造で高さ20m超であり法20条二号に該当する。令81条2項二号ロより、令81条2項一号イの保有水平耐力計算とする場合であっても、 <b>令36条2項一号</b> より令82条の2の層間変形角は適用	鉄筋コンクリート造で高さ20m超であり法20条 <b>1項</b> 二号に該当する。令81条2項二号ロより、令81条2項一号イの保有水平耐力計算とする場合であっても、令82条の2の層間変形角は適用
構造	368	最頻出問題 問1	選択肢・ 解答解説	次頁参照(選択肢1～4、および解説の計算式と図に誤りがありました)	

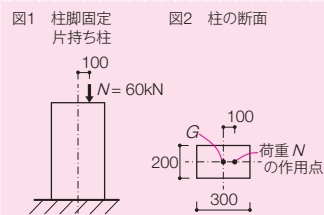
株式会社エクスナレッジ

## 1 最頻出問題 | 四肢択一

## QUESTION

- 1 □□ 図1のような柱脚固定の片持ち柱の柱頭に図心Gから100 mm離れた点に鉛直荷重  $N=60 \text{ kN}$  が作用している。底部における垂直応力度の分布の組み合わせとして正しいのは、次のうちどれか

	左端応力度 $\sigma (\text{N/mm}^2)$	右端応力度 $\sigma (\text{N/mm}^2)$
1	-4	6
2	-3	5
3	-2	4
4	-1	3



## ANSWER

- 1 答えは 4

偏心荷重を受ける部材の縁応力度の問題である。鉛直荷重  $N$  による圧縮応力度  $(= N/A)$  と偏心荷重によって発生する縁応力度  $(= \frac{Ne}{Z})$  の足し合わせにより求まる (367 頁参照)。

$$\sigma_c = \frac{N}{A} = \frac{60 \text{ kN}}{60,000 \text{ mm}^2} = 1 \text{ N/mm}^2$$

$$\sigma_e = \frac{Ne}{Z} = \frac{60 \times 100 \text{ kN}}{\frac{200 \times 300^2}{6} \text{ mm}^3} = 2 \text{ N/mm}^2$$

$$\frac{N}{A} - \frac{Ne}{Z} = 1 - 2 = -1 \text{ N/mm}^2$$

$$\frac{N}{A} + \frac{Ne}{Z} = 1 + 2 = 3 \text{ N/mm}^2$$

柱脚断面の垂直応力度分布

$$\begin{aligned} \frac{N}{A} - \frac{Ne}{Z} &= 1 - 2 = -1 \text{ N/mm}^2 \\ \frac{N}{A} + \frac{Ne}{Z} &= 1 + 2 = 3 \text{ N/mm}^2 \end{aligned}$$